

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義			
	物理工学科概論 (2単位)			
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
開講時期	1年前期	1年前期	1年前期	
選択/必修	選択	選択	選択	
教官	各教官 (材料機能)			

●本講座の目的およびねらい

第11学科の全体の構成および各研究室における研究内容の紹介を行い、研究室の見学を通じて第11学科の概要を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

学科長、専攻長による第11学科の全体構成の紹介、各研究室の教官による研究内容の紹介・小グループによる各研究室の見学と討論。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義			
	図学 (2単位)			
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
開講時期	1年前期	1年前期	1年前期	
選択/必修	選択	選択	選択	
教官	各教官 (教務) 小松 尚 助教授			

●本講座の目的およびねらい

3次元空間にある図形(点、線、面および立体)を2次元の平面上に表現(作図)すること。逆に表現された図から3次元図形を計量的・幾何学的に解析する種々の問題を扱うことにより、空間的図形情報の把握・表現能力を養う。この講義では講義時間中、もしくは課題として実際に作図作業を行うことを通じて、3次元空間の表現手法や幾何学的解析方法を理解し、習得する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 正投影法
2. 多面体と断面
3. 曲線と曲面
4. 立体の相互関係
5. 軸測投影

●教科書

空間構成・表現のための図学：東海図学研究会(名古屋大学出版会)

●参考書

かたちのデータファイル：高橋研究室編(彰国社)

●成績評価の方法

試験および演習レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義			
	コンピュータ・リテラシー及プログラミング (2単位)			
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
開講時期	1年前期	1年前期	1年前期	
選択/必修	必修	必修	必修	
教官	金武 直幸 教授 山澤 弘実 助教授 伊藤 孝至 助教授			

●本講座の目的およびねらい

情報化社会と特徴付けられる今日においては、コンピュータによる情報処理の基礎知識の修得は、専門の学習、研究にとって必要不可欠である。本講義ではコンピュータ・リテラシーおよびFORTRAN言語によるプログラミングの初歩を工学部サテライトラボでの実習を通して修得する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. コンピュータの基本操作
2. ネットワークシステムの利用法
3. FORTRAN言語の文法
4. FORTRANプログラミング手法
5. 数値計算法の基礎

●教科書

ザ・FORTRAN77 (戸川隼人著、サイエンス社)

●参考書

●成績評価の方法

試験および課題演習

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義			
	原子物理学 (2単位)			
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学	
開講時期	1年後期	1年後期	1年後期	
選択/必修	選択	選択	選択	
教官	河出 清 教授 一宮 彪彦 教授			

●本講座の目的およびねらい

原子レベルのミクロな現象はこれまでの古典物理学の枠組の中では理解できない。量子物理学の誕生した過程とエネルギーに関する初歩的な特殊相対論を論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

力学、電磁気学、数学

●授業内容

1. 原子物理学とは
2. 比熱の理論
3. 真空の比熱：プランク定数の発見
4. 光の粒子性
5. 粒子の波動性、de Broglie波長、回折現象
6. 不確定性原理：ハイゼンベルクの不等式
7. 原子構造
8. ボアの理論、 n -エネルギー単位

●教科書

量子力学I 朝永振一郎 みすず書房

●参考書

原子物理学1, 2: シュポルスキー, 玉木英孝訳, 東京図書

●成績評価の方法

試験およびレポート
電卓持込み可。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義		
	物理化学 (2単位)		
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
開講時期	1年後期	1年後期	1年後期
選択/必修	選択	選択	選択
教官	武田 邦彦 教授 興戸 正純 教授 市野 良一 講師		

●本講座の目的およびねらい

専門基礎科目Bの化学基礎IとIIでは、物理化学の基本となる量子化学と化学熱力学をそれぞれ学ぶ。本講義では、物理化学の中で電気化学と化学反応速度論を中心に講義する。それにより物理化学の基礎についての理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎I・II

●授業内容

1. 電気化学・電解質の性質、電極の平衡、電位-pH図、可逆電池、電極反応速度、同時析出など
2. 化学反応速度論・反応速度式、反応次数、半減期、アレニウスの式、触媒作用など

●教科書

●参考書

物理化学(上、下) アトキンス著、千葉・中村訳(東京化学同人) 理工系学生
エンジニアのための改訂 電気化学 一問題とそのとき方一 増子昇、高橋理雄
著、アグネ社

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習	
	数学I及び演習 (3単位)	
対象履修コース	材料工学	
開講時期	2年前期	
選択/必修	必修	
教官	村田 純敏 助教授 満田 光晴 助教授	

●本講座の目的およびねらい

専門基礎科目Bとして数学及び物理学等を学んだ後、さらに進んで工学の専門科目を学ぶとする学生に対して、その基礎となる数学を講義する。微分方程式及びベクトル解析の知識を系統的に与え、理論と応用との結びつきを解析する。

●バックグラウンドとなる科目

数学基礎I, II, III, IV, 物理学基礎I, II

●授業内容

1. 常微分方程式・1階の微分方程式・2階の微分方程式・1階連立微分方程式と高階微分方程式
2. ベクトル解析・ベクトル代数・曲線と曲面・場の解析学

●教科書

技術者のための高度数学I・常微分方程式：北原訳(培風館) ベクトル解析とその応用：竹之内著(サイエンス社)

●参考書

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義及び演習		
	数学2及び演習 (3単位)		
対象履修コース	材料工学	応用物理学	量子エネルギー工学
開講時期	2年後期	2年後期	2年後期
選択/必修	必修	必修	必修
教官	杉原 正顕 教授 岩井 一彦 助教授		

●本講座の目的およびねらい

数学I及び演習に引き続き、専門科目を学ぶ基礎として、工学上重要な方法であるフーリエ解析、さらに工学によく現れる偏微分方程式について講義する。数学的考え方や具体的な問題に現れる理論と応用との結びつきを重視する。

●バックグラウンドとなる科目

数学基礎I, II, III, IV, V, 数学I及び演習

●授業内容

1. フーリエ解析(フーリエ級数・フーリエ変換)
2. 偏微分方程式(1階偏微分方程式・楕円形偏微分方程式・双曲形偏微分方程式・放物形偏微分方程式)

●教科書

マクロヒル大学演習 フーリエ解析：M.H.Spiegel-中野訳(オーム社)
材料コースについては特になし

●参考書

偏微分方程式：神部勉(講談社) --教科書で不十分な面はこの本で十分補われる。
キーポイント偏微分方程式：河村哲也(岩波)、キーポイントフーリエ解析：船越満明(岩波) --初等的疑問にも答えてくれる本、もし、授業について行けなくなったら、この本を読むことを勧める。

●成績評価の方法

毎回の演習で行われる小テストの結果+期末試験(公式などを書いたA4版の資料持ち込み可)
材料コースでは持ち込み不可。試験が大きなウェイトを占める。

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義	
	量子力学A (2単位)	
対象履修コース	材料工学	
開講時期	2年後期	
選択/必修	選択	
教官	松井 正顕 教授	

●本講座の目的およびねらい

物質の諸物性の本質的な理解に必要な量子力学の基礎について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

数学I, 2及び演習, 原子物理学, 力学及び力学演習, 電磁気学A

●授業内容

1. 粒子と波動
2. 量子力学の基本法則
3. 交換関係と不確定性原理
4. 角運動量
5. 中心力場の粒子
6. 2電子問題
7. 摂動論の基礎

●教科書

量子力学：山内恭彦(培風館)

●参考書

量子力学：シッフ(吉岡書店)、量子力学I, II：小出(裳華房)

●成績評価の方法

筆記試験とレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義 結晶物理学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 2年前期 必修
教官	坂 公彦 教授 佐々木 啓寛 講師

●本講座の目的およびねらい

結晶学のあらましと回折による結晶の評価法について講義する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 結晶学概論・結晶構造と空間格子・ステレオ投影と標準投影
2. 回折現象・結晶による回折・逆格子とエワルド球・電子線回折と電子顕微鏡・X線回折

●教科書

坂 公彦著 「結晶電子顕微鏡学」 内田老鶴園

●参考書

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義 移動現象論 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 2年後期 必修
教官	野村 宏之 教授 桑原 守 教授

●本講座の目的およびねらい

工学基礎としての移動現象(運動量, 熱, 物質移動)を学び, 材料製造プロセスにおいて起こっている移動現象を理解するために必要な基礎知識を修得することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

物理学基礎, 数学基礎, 数学1及び演習

●授業内容

1. 移動現象の基礎的法則
2. 運動量, 熱, 物質移動の微分収支と微分方程式の導出
3. 運動量移動
4. 熱移動
5. 物質移動

●教科書

●参考書

移動速度論: 城塚, 平田, 村上(オーム社) 伝熱工学: 関(森北出版)

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義 材料物理化学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 2年前期 必修
教官	藤澤 敏治 教授

●本講座の目的およびねらい

多くの材料プロセス、とりわけ素材製造プロセスにおいては、各種の化学反応が利用されている。専門基礎科目Bの化学基礎IIにおいては、化学熱力学の基礎的事項について学ぶが、ここでは、化学熱力学についての知識をさらに深めることを目指して、材料プロセスにおいて重要な自由エネルギーと化学平衡を中心に講義する。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎II, 物理化学

●授業内容

- I. 熱力学の基礎
- II. 溶体の熱力学の基礎
[多くの素材プロセスにおいて溶体は関与する。溶体の化学的性質を定量的に知ることは、素材プロセスにおける反応の制御にとって不可欠である。ここでは溶体の熱力学的な取扱い方について概説する。]
- III. 化学反応と熱力学的平衡
[化学反応の熱力学的な平衡条件について、具体例として気体の間の反応平衡を用いて説明する。また、凝縮系純物質(固体や液体の純物質)と気体を含む系の反応平衡関係についてエリンガム図を用いて説明する。]

●教科書

●参考書

1. 金属化学入門シリーズI 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善
2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by David R. Gaskell, Taylor & Francis Publishers

●成績評価の方法

レポート及び筆記試験

科目区分 授業形態	専門基礎科目 講義 統計力学A (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 2年後期 選択
教官	高井 治 教授 杉村 博之 助教授

●本講座の目的およびねらい

物質に関する理解が深まるにつれて、物質を分子あるいはその集合体としてとらえる分子論が生まれた。この分子論的立場から、熱力学を考察する基礎が統計力学である。「統計力学A」では、材料工学を学ぶ上で重要な統計力学の基本的概念について学習する。物質の熱現象を分子論的に考察する基礎を理解することを目的とし、ニュートン力学の立場と量子力学の立場の両方から取り扱う。物質の構造と性質を理解する基礎となる。

●バックグラウンドとなる科目

原子物理学, 材料物理化学, 応用熱力学, 量子力学A

●授業内容

1. 温度と熱
2. 熱力学のまとめ
3. 気体と分子
4. 気体分子の分布確率
5. 古典的な体系
6. 量子力学的な体系
7. 量子論的理想気体

●教科書

●参考書

熱・統計力学: 戸田盛和(岩波書店)

統計物理(上)(下): パークレイ物理学コース(丸善), 統計物理: キッテル(サイエンス社), 熱力学・統計力学: 原島(培風館)

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分
授業形態 専門基礎科目
講義
無機化学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年前期
選択/必修 必修選択

教官 増田 秀樹

●本講座の目的およびねらい

化学の基礎としての無機化学及び現代のトピックスを、理論的及び系統的に学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎Ⅰ～Ⅲ、物理化学、原子物理学

●授業内容

1. 序：原子構造、化学結合の生成、イオン性固体、酸・塩基、周期表
2. 固体化学：配位数と立体構造、異性現象、平衡定数、キレート効果、配位子変移反応、電子移動反応
3. 主族元素
4. 遷移元素の化学：配位子場理論、元素各論、配位子場安定化エネルギー
5. トピックス

●教科書

基礎無機化学：コットン・ウィルキンソン・ガウス著、中原訳（培風館）

●参考書

無機化学（上・下）：コットン・ウィルキンソン・ガウス著、中原訳（培風館）

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分
授業形態 専門基礎科目
講義
材料力学第1 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年前期
選択/必修 必修

教官 宮田 隆司 教授
田川 智哉 助教授

●本講座の目的およびねらい

機械や構造物に使用される材料の力学的応答（材料の変形と強さ、安定性など）について学ぶ。力学を基礎とした、機械部品や構造物の設計、材料選択の基礎となる学問である。

●バックグラウンドとなる科目

物理学基礎1、力学及び力学演習

●授業内容

1. 材料力学の基礎概念
2. 応力とひずみ
3. 棒の力学（引張と圧縮）
4. 平面問題（組合せ応力）
5. 真直はり
6. はりの応力

●教科書

基礎材料力学：高橋・町田（培風館）

●参考書

●成績評価の方法

演習と宿題の提出および筆記試験

科目区分
授業形態 専門基礎科目
講義
材料力学第2 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教官 石川 孝司 教授

●本講座の目的およびねらい

材料力学は機械や構造物の各部材に作用する外力の種類と大きさを想定し、これによって生ずる部材の変形および強さを理論と実験の両面から考究する学問である。本授業では材料力学第1に引き続いて、材料力学のはりの変形、円管・球の変形、長柱の座屈に関する事項を講義する。知識を身につけるだけでなく、具体的問題に即して、利用し生かすことを学ぶため、毎日演習を行い多くの問題を解く。

●バックグラウンドとなる科目

材料力学第1、数学基礎、物理学基礎1、力学及び力学演習

●授業内容

- 第1週：はりの変形、ガイダンス
- 第2週：積分法によるはりの計算
- 第3週：面積モーメント法によるたわみの計算
- 第4週：簡易加算法によるたわみの計算
- 第5週：不確定はり、連続はり
- 第6週：ひずみエネルギー
- 第7週：仮想仕事の原理
- 第8週：カスチリアーノの定理
- 第9週：組合わせはり
- 第10週：平等強さのはり
- 第11週：曲がりはり
- 第12週：内圧を受ける円管の変形
- 第13週：内圧を受ける球の変形
- 第14週：長柱の座屈
- 第15週：定期試験

●教科書

基礎材料力学：高橋・町田（培風館）

●参考書

●成績評価の方法

筆記試験および演習レポート

科目区分
授業形態 専門基礎科目
講義
材料物理学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教官 黒田 光太郎 教授
佐々木 啓克 講師

●本講座の目的およびねらい

多数の原子が集めた系における熱力学的平衡状態を記述する状態関数について学ぶ。状態関数の理解は材料工学の多くの分野の基礎となるものである。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎II、結晶物理学、材料物理学

●授業内容

1. 物質の集合状態と相律
2. 2元系平衡状態関数
3. 状態関数の熱力学的基礎
4. 状態関数の非平衡的導出
5. 3元系状態関数

●教科書

材料組織学：長村勉（朝倉書店）、物質の構造：ウルフ編（岩波書店）、合金状態関数：横山（オーム社）、金属組織学：須藤他（丸善）、金属組織学序論：阿部（コロナ社）

●成績評価の方法

試験

科目区分 専門基礎科目
授業形態 演習
材料物理化学演習 (1.5 単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修選択

教官 興戸 正純 教授
藤澤 敏治 教授

●本講座の目的およびねらい

物理化学、材料物理化学の内容に関する演習を行うことにより、講義の内容を補填し理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎II、物理化学、材料物理化学

●授業内容

1. 化学熱力学：熱力学的量の計算（エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー）、化学平衡の計算（気体を含む系の反応、凝縮相と気体を含む系の反応）、相律と状態図、部分モル量、エリンガム図
2. 電気化学・化学電池・自由エネルギーと平衡電位・電位-pH図・腐食速度

●教科書

●参考書

物理化学（上・下）アトキンス著、千葉・中村訳（東京化学同人）

●成績評価の方法

レポート

科目区分 専門基礎科目
授業形態 講義
応用熱力学 (2 単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修選択

教官 藤澤 敏治 教授

●本講座の目的およびねらい

多くの材料プロセス、とりわけ素材製造プロセスにおいては、必ずといってよいほど溶体（溶液）が関与してくる。「材料物理化学」において、諸君は、材料プロセスにおいて重要な自由エネルギーと化学平衡の関係について学習した。ここでは化学平衡を実際に利用することができるようになることを目指して、その際知っておかねばならない、溶体の熱力学的取り扱い方を中心に講義する。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎II、物理化学、材料物理化学、材料物理学

●授業内容

ΔG° の求め方[化学反応の平衡定数の値は標準自由エネルギー変化 ΔG° がわかれば求めることができる]
溶体（溶液）の熱力学的取り扱い[溶体（溶液）の熱力学的取扱いについて詳細に説明する]
相律と状態図（状態図の利用法）[相律における自由度、状態図（温度-組成図）と自由エネルギー-組成図、ならびに成分の活量の関係について説明する]
活量の求め方[各種の反応の平衡関係を扱う場合、活量と組成の関係をあらかじめ調べておく必要がある。ここでは各種の活量の求めかたについて説明する。]

●教科書

●参考書

1. 金属化学入門シリーズ1 金属物理化学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善
2. Introduction to the Thermodynamics of Materials, Third Edition by Dav id R. Gaskell, Taylor & Francis Publishers

●成績評価の方法

レポートおよび筆記試験

科目区分 専門基礎科目
授業形態 講義
分析化学第1 (2 単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教官 平出 正孝 教授
藤澤 敏 助教授

●本講座の目的およびねらい

物質の化学分析に必要な基本的技法とその理論について、特に湿式化学分析、分離分析及び分子分光分析を中心に論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎I~III、物理化学、無機化学

●授業内容

1. 序：化学分析と分析化学、分析誤差
2. 容量分析：中和滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定、キレート滴定およびコロイド滴定
3. 分離：沈殿分離（含重量分析）、電着分離・蒸発分離、消滅抽出、クロマトグラフィー（液体・ガス・超臨界流体）
4. 分子分光分析：可視・紫外分光分析、けい光分析、赤外分析およびラマン分析

●教科書

●参考書

分析化学概論：水池敏・河口広司（産業図書）
分析化学反応の基礎 演習と実験 改訂版（培風館）
機器分析のてびき1&2 泉英治（化学同人）

●成績評価の方法

筆記試験・レポート

科目区分 専門基礎科目
授業形態 実験
材料工学実験基礎 (2 単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 2年後期
選択/必修 必修

教官 各教官（材料機能）

●本講座の目的およびねらい

材料工学に関する基礎的な実験を行い、関連する基礎理論や原理の理解を深めるとともに、実験の基本技術を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

専門基礎科目Aの各科目

●授業内容

1. X線・電子回折実験
2. 半導体の電気特性測定
3. 熱分析実験
4. 溶融合金の活量測定
5. 組織観察実験
6. 引張試験
7. 分析化学実験

●教科書

●参考書

材料工学実験テキスト

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習 材料物理学演習 (1.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修選択
教官	坂 公彦 教授 松井 正顕 教授 高井 治 教授

●本課程の目的およびねらい

- 専門基礎科目および専門科目の結晶物理学、材料物理学、量子力学A、統計力学A、半導体材料学の理解を深めるため、それらの内容に関する演習を行う。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学、材料物理学、量子力学A、統計力学A、半導体材料学

●授業内容

1. 結晶物理学に関する演習
2. 材料物理学に関する演習
3. 量子力学Aに関する演習
4. 統計力学に関する演習
5. 半導体物理学に関する演習

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

演習およびレポート

科目区分 授業形態	専門基礎科目 演習 材料工学設計製図 (1.5 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修
教官	宮田 隆司 教授 石川 孝司 教授 湯川 伸尚 助教授

●本課程の目的およびねらい

簡単な機械製図実習と機械設計の基礎的思考、CAD(計算機援用設計)などについて講義とパソコンを用いた演習を行う。講義時間には設計製図に関する座学の他、工作機械の見学も行い、設計における基礎知識を養う。CADにおいては、個人毎に与えられた課題に取り組み、講義時間内に仕上がらない場合は宿題として、完成させる。CAD演習中は複数の教官、技術職員がコンピュータの操作方法などを個別指導する。

●バックグラウンドとなる科目

材料力学第1、第2

●授業内容

- 第1週: ガイダンスとイントロ
- 第2週: コンピュータの基本操作
- 第3週: 製図の基礎とフリーハンド図1及びボルトの書き方
- 第4週: ボルトの製図(コンピューター演習)
- 第5週: フリーハンド図11及び許容公差、はめあい
- 第6週: クランク シャフトの設計(1)
- 第7週: 軸継手の設計(1)
- 第8週: クランクシャフトの設計(2)
- 第9週: 軸継手の設計(2)
- 第10週: クランクシャフトの設計(3)
- 第11週: 機械工作実習(講義と見学)
- 第12週: 軸継手の設計(3)
- 第13週: 課題講評(講義)

●教科書

精説機械製図: 和田裕苗編(実教出版)

●参考書

●成績評価の方法

レポートおよび製図

科目区分 授業形態	専門科目 講義 材料成形学 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 2年後期 選択
教官	篠田 剛 助教授 香名 宗春 助教授

●本課程の目的およびねらい

各種材料を成形加工(溶接、切断、表面加工、鋳造、塑性加工、微細加工など)を利用して製品や部品をつくる際の成形加工法に関する基礎的な知識を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理学、材料物理化学、電磁気学、材料力学

●授業内容

1. 各種材料の成形法概論
2. 各種熱源と材料加熱、溶融、凝固特性
3. 各種成形法(溶接、微細加工、鋳造、塑性加工、熱切断等)
4. 成形による材料特性の変化
5. 材料成形の応用例

●教科書

溶接・接合工学の基礎: 溶接学会編(丸井)

●参考書

・レーザーの科学, NIKK Books 675, 香名 宗春著(NIKK出版協会) ・レーザー加工入門シリーズ 1. レーザー加工の基礎(上巻) 2. レーザー加工の基礎(下巻) 3. レーザー切断加工 4. レーザー溶接加工 香名, 新井, 宮本共著(マシーニスト出版)

●成績評価の方法

試験および講義レポート

科目区分 授業形態	専門科目 実験 材料工学実験第1 (2 単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修
教官	各教官(材料機能)

●本課程の目的およびねらい

材料工学各分野における基礎的及び応用的な実験を行い、諸材料の構造、機能・特性やそのプロセッシングに関連する基礎理論の理解を深めるとともに、卒業研究を行うための基礎知識や基本技術を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学実験基礎及び専門科目の各科目

●授業内容

1. 単結晶の方位解析
2. スラッグの熱力学
3. 電気化学
4. 相変態
5. 衝撃試験と破面観察
6. 強磁性体と超伝導体の特性
7. 半導体のエネルギー構造
8. 電磁気力の利用
9. 物質移動速度・反応速度
10. 凝固と組織
11. 塑性加工
12. 溶接と非破壊検査
13. 複合材料
14. 真空技術と薄膜

●教科書

材料工学実験テキスト

●参考書

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門科目 実験
	材料工学実験第2 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい

材料工学各分野における基礎的及び応用的な実験を行い、結晶材料の構造、微観・特性やそのプロセッシングに関連する基礎理論の理解を深めるとともに、卒業研究を行うための基礎知識や基本技術を修得する。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学実験基礎及び専門科目の各科目

●授業内容

1. 単結晶の方位解析
2. スラッグの熱力学
3. 電気化学
4. 相変態
5. 衝撃試験と破面観察
6. 強磁性体と超伝導体の特性
7. 半導体のエネルギー構造
8. 電磁気力の利用
9. 物質移動速度・反応速度
10. 凝固と組織
11. 塑性加工
12. 溶接と非破壊検査
13. 複合材料
14. 真空技術と薄膜

●教科書

●参考書

材料工学実験テキスト

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	金属材料科学第1 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修選択
教官	宮原 一哉 教授

●本講座の目的およびねらい

建築、機械車両、化学あるいはエネルギープラント等の構造用鋼として、また主要部品材料として広く使用されている鉄鋼材料の種々の微細構造と特性について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学、材料物理学、材料強度学

●授業内容

1. 鉄と鋼の特性、状態図と相変化
2. 相変化を利用した種々の熱処理
3. 鉄鋼における合金元素の役割
4. 普通鋼、特殊鋼の特性および用途
5. 鉄鋼材料における先端技術

●教科書

●参考書

鉄鋼材料科学：門馬(実教出版)

●成績評価の方法

試験及び演習レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	プロセス数学・数値解析学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修選択
教官	野村 宏之 教授 岩井 一彦 助教授

●本講座の目的およびねらい

プロセス数学では、数学2及び演習に引き続き材料工学において必要となる解析手法を学ぶ。数値解析学では材料プロセスの理解とアプローナに必要な数値解析の手法とアルゴリズムについて展開する。

●バックグラウンドとなる科目

数学1・2及び演習、計算機プログラミング

●授業内容

1. 微分方程式の物理的解釈とその解法
2. 数値解析学・代数方程式の数値解、数値積分、相関法・常微分方程式の数値解・偏微分方程式の数値解析

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	格子欠陥論 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 必修選択
教官	坂 公慈 教授 佐々木 勝寛 講師

●本講座の目的およびねらい

結晶内の欠陥、特に転位の性質について講義する。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学

●授業内容

1. 結晶中の欠陥
2. 結晶中の転位
3. 転位の幾何学
4. 弾性論の要点
5. 直線転位
6. 転位に働く力
7. 不完全転位
8. 不純物と転位の相互作用
9. 転位の運動と降伏及び加工硬化
10. 結晶の強化機構

●教科書

●参考書

坂 公慈著「結晶電子顕微鏡学」内田老鶴園
Theory of Dislocations Hirth and Lothe(McGraw-Hill)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	表面物理化学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修選択
教官	興戸 正純 教授 市野 良一 講師

●本課程の目的およびねらい

材料の表面および界面の物理化学について論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

化学基礎II, 物理化学, 材料物理化学

●授業内容

1. 表面の熱力学と界面エネルギー
2. 二相の接触界面現象
3. 金属の安定性(腐食, 酸化)と環境
4. 電気化学計測と腐食速度の測定法
5. 不動態と耐食性材料
6. 材料表面処理による耐食性賦与

●教科書

●参考書

金属表面工学：大谷(日刊工業新聞社) 腐食化学と防食技術：伊藤(コロナ社)

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	材料物性学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修選択
教官	松井 正順 教授 浅野 秀文 助教授

●本課程の目的およびねらい

物質における、電子と格子振動の挙動に関する理論と物性の基礎、及びそれら物性を機能とする各種材料の基礎について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

量子力学A, 結晶物理学, 統計力学, 材料物理学, 原子物理学

●授業内容

1. 自由電子
2. ほとんど自由な電子とブリルアンゾーン
3. 強く束縛された電子と固相バンド構造
4. 格子振動
5. 電気伝導と比熱(金属, 半導体, 絶縁体)
6. 光の反射と吸収
7. 超伝導材料, 磁性材料, 誘電体材料等の基礎

●教科書

●参考書

固体物理学入門：キッテル著(九章) 固体物理学：村尾著(共立出版)、なお参考資料として自作教科書を配布

●成績評価の方法

筆記試験とレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	半導体材料学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修選択
教官	竹田 英和 教授

●本課程の目的およびねらい

半導体を電子や光子の振舞いの場として捉え、その場をどのように作りだすかという観点から半導体材料を論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

数学及び数学演習第2, 電磁気学A, 結晶物理学, 量子力学A

●授業内容

1. 固体内電子の基礎物性・金属・半導体・絶縁体, 固体中の電子分布, 固体の諸効果
2. 電子輸送デバイスの基本構造と原理・金属/半導体, p n接合, トランジスタ, 異種接合, 絶縁体/半導体
3. 電子輸送現象の基本方程式：ボルツマンの輸送方程式

●教科書

応用物性：佐藤昭昭編(オーム社)

●参考書

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	分析化学第2 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修選択
教官	平出 正孝 教授 齋藤 徹 助教授

●本課程の目的およびねらい

物質の化学分析に必要な基本的技法とその理論について、特に機器分析法を中心に論ずる。さらに、電気化学、放射化学および生化学に基づく分析法についても論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

分析化学第1, 化学基礎Ⅰ～Ⅲ, 物理化学, 無機化学, 原子物理学

●授業内容

1. 電磁波利用分析：X線分析, 光電子およびオージェ電子分光分析, 核磁気および電子スピン共鳴分析
2. 原子分光分析：原子吸光・原子けい光分析, 発光分光分析(ICP-AES・ICP-MS)
3. 電気分析：電位差分析, 電量分析, ポーラログラフィーとボルタンメトリー, 電導度分析, 高周波分析
4. 放射化学分析
5. 環境分析, バイオ分析

●教科書

●参考書

理工系 機器分析の基礎、保母敏行ら編(朝倉書店)
第2版 機器分析の手引き1～3 泉英治ら(化学同人)
分析化学概論：本池敦・河川広司(産業図書)

●成績評価の方法

筆記試験・レポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	金属反応論 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	必修選択
教官	桑原 守 教授

●本講座の目的およびねらい

高温の異相系反応であり、移動現象の影響を強く受けるガス-メタル間、スラグ-メタル間反応などの金属間反応の速度と物質移動現象の基礎的関係を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理化学、移動現象論、プロセス数学・数値解析学

●授業内容

1. 異相系反応と物質移動速度
2. ガス-メタル間反応速度
3. スラグ-メタル間反応速度
4. 凝固と物質移動

●教科書

●参考書

講座・現代の金属学 製錬編 4 冶金物理化学：(日本金属学会)

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	複合材料工学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	選択
教官	金武 直幸 教授

●本講座の目的およびねらい

工業材料は使用環境に応じて様々な特性が要求されるが、その要求は常に高度化し、それに対応できる新材料の開発や従来材料の改良が求められる。その解決手段の一つとして、複数の個別材料を複合化して高度な特性を実現する複合材料の利用がある。本授業では、その様な材料の複合化に関する基礎的な知識を習得して、様々な複合化による新材料の開発に応用できる素養を身に付けることを目的としている。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学、材料物理学、材料物理化学、材料力学第1、材料力学第2

●授業内容

1. ガイダンスおよび序論 (なぜ複合材料か?)
2. 複合材料の分類と工業利用の現状
3. 連続繊維複合材料の弾性特性、強度特性
4. 不連続繊維複合材料の弾性特性、強度特性
5. 粒子分散強化複合材料の強化機構
6. 樹脂系複合材料の製造方法
7. 金属系複合材料の製造方法
8. 異種材料間の界面現象
9. 複合材料のリサイクルと工学倫理
10. 材料複合化の新しい展開

●教科書

使用しない。
授業の際に補足資料を配布する。

●参考書

●成績評価の方法

講義での小テストあるいはレポートおよび定期試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	弾塑性学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年前期
選択/必修	選択
教官	涌川 伸樹 助教授

●本講座の目的およびねらい

ほとんどの工業材料は、加工されて形を与えられ製品になって初めて役に立つ。材料に形を与える方法は多くあるが、その中でも特に、材料に大きな力を加えると生じる弾塑性変形を利用して材料に形を与える塑性加工は、生産性や材料の利用効率が高いなど工業上重要である。

そこで本講座では材料が弾塑性変形するときの材料の変形状態、加工力の状態、材料流れなどを把握する手段として、応力とひずみを力学的に求める解法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

数学基礎、材料力学第1、材料力学第2

●授業内容

1. 材料の加工についての概論
2. 塑性変形の材料科学
3. 一軸変形
4. 均等 曲げ変形
5. ねじり変形
6. 組合せ応力による変形
7. 剛塑性有限要素解析

●教科書

工業塑性力学：益田・室田(養賢堂)

●参考書

非線形有限要素法：日本塑性加工学会(コロナ社)、塑性加工：鈴木(森屋房)

●成績評価の方法

講義中に行う小テストまたはレポート、ならびに期末の筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	材料設計学 (2単位)
対象履修コース	材料工学
開講時期	3年後期
選択/必修	必修選択
教官	森永 正彦 教授

●本講座の目的およびねらい

従来の材料の枠組みにとらわれずに合理的に材料設計するために、電子や原子のレベルからの材料の見方、考え方について講述する。すなわち、材料の性質を左右する結晶構造と電子構造の基礎を学び、さらに計算材料設計学の基礎となる計算法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学、材料物理学、材料物性学、量子力学A

●授業内容

1. 現代の材料設計
2. 材料の結晶構造
3. 材料の電子構造
4. 分子軌道法の基礎
5. 分子動力学法の基礎

●教科書

なし

●参考書

計算材料学：堂山、山本編(海文堂)先端材料の基礎知識：日本材料学会編(オーム社)、材料システム学：日本学術振興会第156委員会編(共立出版)

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義 材料強度学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	宮田 隆司 教授 田川 哲哉 助教授

●本講座の目的およびねらい
各種固体材料の強度と破壊について、機構と支配因子、破壊力学などの工学的評価方法を含めて論ずる。

●バックグラウンドとなる科目
材料力学第1、第2、材料物理学、弾塑性学、金属材料学、格子欠陥論

●授業内容
1. 固体材料の強度と破壊の基礎
2. 各種構造材料の強度と破壊
3. 破壊力学の基礎
4. 疲労
5. 高温強度と環境強度

●教科書
材料強度学：日本材料学会

●参考書

●成績評価の方法
筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義 反応プロセス工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 必修選択
教官	浅井 滋生 教授 若井 彦 助教授

●本講座の目的およびねらい
材料製造工程における流体挙動に焦点を当て、流体特性、特に電磁気力利用による電磁流体の制御方法を論ずる。また、材料電磁プロセスについて述べる。

●バックグラウンドとなる科目
移動現象論、電磁気学A、数学2及び演習

●授業内容
1. 移動現象の概論
2. Navier-Stokes 式の導出
3. 電磁流体力学序論
4. 材料電磁プロセス

●教科書
入門 材料電磁プロセス (内田老鶴園)

●参考書
流体力学：日野幹雄 (朝倉書店)

●成績評価の方法
試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義 相変換工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 必修選択
教官	野村 宏之 教授 滝川 光晴 助教授

●本講座の目的およびねらい
相変換を伴う材料プロセス (凝固加工および鑄造プロセス) について基礎を学び、さらに相変換材料の特性、機能とそれを創出するプロセスへの理解を深める。

●バックグラウンドとなる科目
物理学基礎、物理化学、材料物化学、移動速度論、材料成形学

●授業内容
1. 序論
2. 凝固加工の熱力学的基礎
3. 金属の凝固
4. 鑄造用金属の組織と材質の制御
5. 金属の凝固伝熱解析

●教科書

●参考書
鑄造凝固：日本金属学会 (丸善) 材料プロセス工学：井川ら (朝倉書店)

●成績評価の方法
試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義 材料塑性加工学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 必修選択
教官	石川 孝司 教授

●本講座の目的およびねらい
塑性加工は、主として金属材料の一部または全部に塑性変形を与えて、要求された形状・寸法・材質の製品を作る加工法であり、今日の工業生産の中で素材から最終製品の製造に至るまでの広い範囲にわたって重要な役割を果たしている。本講座では塑性加工の一般的な知識を習得し、ものづくりの重要性を理解することを目的としている。塑性力学の基礎からはじめ、各種加工法の原理と特徴について講義する。

●バックグラウンドとなる科目
材料力学第1、材料力学第2、弾塑性学、力学

●授業内容
第1週：ガイダンス、どうやって作るのだろう
第2週：塑性加工の学問と技術の特徴
第3週：塑性加工の材料科学
第4週：塑性加工の力学1 (応力とひずみ)
第5週：塑性加工の力学2 (降伏条件、構成式)
第6週：塑性加工の解析1 (スラブ法、エネルギー法)
第7週：塑性加工の解析2 (上昇法、すべり線論法)
第8週：板圧延
第9週：型材圧延・圧延機
第10週：鍛造
第11週：押出し・引抜き
第12週：鋳造 (プレス成形)
第13週：せん断加工、プレス機械
第14週：塑性加工のトライボロジー・計測
第15週：定期試験

●教科書
塑性加工：鈴木 (裳華房)

●参考書

●成績評価の方法
筆記試験及びレポート

科目区分 専門科目
授業形態 講義
熱加工プロセス工学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 3年後期
選択/必修 必修選択

教官 篠田 剛 助教授
青名 宗春 助教授

●本講座の目的およびねらい

各種材料を用いて構造物を製作、組立てる上で使用される熱加工プロセス、特に溶接・接合法と材料の接合性等について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理学、材料物理化学、材料力学第1、2、材料成形学

●授業内容

1. 熱加工プロセス法概論
2. 各種材料の溶接性、接合性
3. 熱源の選択と熱伝導論
4. 溶接システムおよびその制御
5. 溶接・接合による残留応力の発生と防止
6. 溶接・接合部の機械的性質と品質保証
7. 溶接設計
8. 新素材の溶接/接合

●教科書

溶接・接合工学の基礎：溶接学会編（丸善）

●参考書

溶接工学：佐藤、向井、豊田（理工学社）

●成績評価の方法

試験及び講義レポート

科目区分 専門科目
授業形態 講義
材料プロセス計測工学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 3年後期
選択/必修 必修選択

教官 杉村 博之 助教授
高井 治 教授

●本講座の目的およびねらい

どのような物理量・化学量も、計測することによって、主観の入らない客観的な判断が下せる。「計測」は科学および工学にとって不可分の行為である。材料プロセス計測工学では、どのようにして計測が行われるか、その基礎を理解することを目的とする。数学、物理、化学に関する基本的知識を基に、計測に関する基礎的事項を学習する。正確な計測結果を得るための基本的な概念、統計的に計測結果を評価する手法、材料プロセスに関連する各種計測技術等を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理化学、材料物理学

●授業内容

1. 計測とは何か
2. 計測データの統計処理
3. 雑音とゆらぎ
4. 自動制御の基礎
5. プロセス計測の基礎・温度・圧力、真空度・長さ、質量・濃度

●教科書

●参考書

計測工学：谷口修、堀込泰雄（森北出版）

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 専門科目
授業形態 講義
セラミック材料学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 3年後期
選択/必修 選択

教官 黒田 光太郎 教授
野水 勉 教授

●本講座の目的およびねらい

セラミックスの構造、反応、製造化学、および物性を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料物理化学、結晶物理学、材料力学第1、第2、材料物理学、移動現象論

●授業内容

1. 序論
2. セラミックスの構造：主に各種酸化物、窒化物、炭化物
3. セラミックスの反応：転移、固相反応、固液反応など
4. セラミックスの製造化学
5. セラミックスの物性：熱的、機械的、電気的、化学的など

●教科書

佐久間 健人「セラミック材料学」（海文堂）

●参考書

●成績評価の方法

試験

科目区分 専門科目
授業形態 講義
微粒子材料学 (2単位)

対象履修コース 材料工学
開講時期 3年後期
選択/必修 選択

教官 舘部 吉基 助教授

●本講座の目的およびねらい

粉末などを介した材料開発の基礎として、異方質や不均質な製品の評価やプロセスの制御に本質的な捉え方と定置法について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 定量方法の基礎（キャラクタリゼーション）・粉末や超微細の分散粒子群・製品の多相混在不均質組織
2. プロセスの定量基礎解析・粉末製造工程・成形工程・製品の確率試験

●教科書

Y. WANIBE and T. ITOH: New Quantitative Approach to Powder Technology, John Wiley and Sons, 1998

●参考書

「粉末技術の新しい展開」：舘部吉基、伊藤孝至（松香堂書店、京都、1995）

●成績評価の方法

試験および/またはレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	素材プロセス工学第1 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	桑原 守 教授

●本講座の目的およびねらい

素材プロセスの基礎を学ぶ。講義では、主に鉄鋼製造プロセスを取り上げ、物理化学と反応速度論の観点より論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理化学、移動現象論、金属反応論、応用熱力学

●授業内容

1. 製鉄製鋼の原理
2. 製鉄製鋼反応の速度論
3. 凝固現象
4. 素材プロセスにおける各種操作 (異相系分散、接触操作、攪拌混合操作)

●教科書

●参考書

講座・現代の金属学 製鉄編1 鉄鋼製錬：日本金属学会

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	素材プロセス工学第2 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	奥戸 正純 教授 武田 邦彦 教授 市野 良一 講師

●本講座の目的およびねらい

非鉄金属材料製造プロセスあるいは高純度金属製造における電極反応、高温反応及び溶液化学反応を利用した分離プロセスについて述べ、その中で素材プロセスに関する化学熱力学的、電気化学的諸問題の理論的取り扱いについて論じる。

●バックグラウンドとなる科目

物理化学、材料物理化学、応用熱力学、金属反応論

●授業内容

1. 素材プロセスとその物理化学
2. 非鉄金属製錬の原理と実際
3. 各種の乾式精製法
4. スラッグの熱力学
5. 湿式法による分離プロセス
6. 工業電解プロセス

●教科書

●参考書

非鉄金属製錬：日本金属学会、非鉄金属製錬：日本金属学会 金属化学入門シリーズ3 金属製錬工学 編集・発行 日本金属学会 発売 丸善

●成績評価の方法

筆記試験

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	金属材料学第2 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	村田 純哉 助教授 滝田 光晴 助教授

●本講座の目的およびねらい

金属材料学第1に引き続き、鋼以外の金属材料の基礎及び各論について講義する。特に、各種金属材料の組成に対する考え方を講述するとともに、熱処理による組織制御とそれに伴う材料の物理的性質、化学的性質の変化について解説する。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理学、材料設計学、金属材料学第1

●授業内容

1. 非鉄金属材料の基礎：組成、状態図、熱処理による組織制御、物理的性質、化学的性質
2. 非鉄金属材料各論：アルミニウム合金 (シルミン、ジュラルミン等)・銅合金 (黄銅、青銅等)・チタン合金・ニッケル合金・マグネシウム合金・貴金属・その他の非鉄金属材料

●教科書

●参考書

非鉄金属材料 (楢山正孝；コロナ社)
非鉄金属材料 (村上陽太郎；明倉書店)
非鉄材料 (日本金属学会；材料編5)

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	磁性材料学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	松井 正順 教授 浅野 秀文 助教授

●本講座の目的およびねらい

物質の磁性の起源と、磁性に関連する理論ならびに各種磁性材料の基礎について講述する。

●バックグラウンドとなる科目

材料物理学、磁気学A、量子力学A、結晶物理学、統計力学

●授業内容

1. 磁気モーメントの起源
2. 交換相互作用
3. キュリーワイスの法則とブリルアン関数
4. 磁気異方性と磁歪
5. 磁区構造と磁化過程
6. ハードとソフト磁性材料
7. 磁性薄膜
8. 磁気工学及び磁気応用

●教科書

●参考書

強磁性体の物理：近角徳徳著 (裳華房) 磁気工学の基礎：太田忠三著 (共立出版)、
なお、参考書として自作教科書を配布

●成績評価の方法

筆記試験とレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	知能材料学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	竹田 美和 教授

●本講座の目的およびねらい

外部からの刺激(外部信号)に対し、判断をしながら機能を発揮する材料に関する基礎を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

半導体材料学, 量子力学A, 材料物性学

●授業内容

1. 序論: 知能材料とは何か
2. 電子輸送現象の基本式: ボアソンの方程式, 拡散方程式
3. 固体と外部信号との相互作用・光を中心として
 - 3-1 半導体の光吸収
 - 3-2 光学定数
 - 3-3 半導体の発光
 - 3-4 光電効果
 - 3-5 発光素子
 - 3-6 受光素子

●教科書

応用物性: 佐藤昭昭編(オーム社)

●参考書

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	電子材料学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択
教官	藤原 康文 助教授

●本講座の目的およびねらい

電子材料として一般に、導体、半導体、絶縁体(誘電体)、磁性体に分けられるが、本講義では金属と絶縁体(誘電体)を取り上げる。半導体デバイスや集積回路における、これら材料の役割は本質的に重要である。本講義では、その役割を明らかにした後、各々の基本的性質とその物理について学習し、電子材料、特に金属と絶縁体(誘電体)を取り扱う材料工学者の基礎的知識を構築することを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目

半導体材料学, 材料物性学

●授業内容

シリコン集積回路を例として、金属や絶縁体として何がどのように使われているか、現状で何が問題となっているか、将来に向けて何が要求されているかについて学習する。次に、半導体/金属界面、半導体/絶縁体界面の物理、およびそれを用いた半導体デバイスの構造・動作原理・動作特性・作製プロセスについて学習し、半導体デバイスと金属・絶縁体の関わりを体得する。最後に、誘電体に関する基礎的な物理について学習した後、中でも重要な強誘電体を取り上げ、その性質や応用例に触れ、工学における誘電体の役割を体得する。

●教科書

●参考書

応用物性: 佐藤昭(オーム社) 誘電体現象論: 犬石等(オーム社)

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	薄膜・結晶成長論 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択	応用物理学 3年後期 選択
教官	高井 治 教授 井上 肇志 助教授 田淵 雅夫 助教授	

●本講座の目的およびねらい

薄膜及びバルク結晶の各種成長法とその評価法について論ずる。

●バックグラウンドとなる科目

結晶物理学, 材料物理化学, 材料物理学, 応用熱力学, 表面物理化学

●授業内容

1. 薄膜のエピタキシャル成長法と成長機構・分子線エピタキシー, 気相エピタキシー, 液相エピタキシー
2. バルク単結晶成長法
3. PVD法・スパッタリング, 真空蒸着, イオンプレーティングなど
4. CVD法・熱CVD, プラズマCVD, 光CVDなど
5. 薄膜の評価法

●教科書

●参考書

薄膜: 金原・藤原(森永研)
III-V族化合物半導体: 赤崎(培風館)
半導体エピタキシー技術: 河東田(産業同書)
半導体超格子の物理と応用: 日本物理学会(培風館)
超格子構造の光物性と応用: 岡本(コロナ社)

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	有機材料学 (2単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 選択
教官	杉村 博之 助教授 非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

代表的な有機材料に、プラスチックやゴムのような高分子材料がある。「有機材料学」では、上としてこの高分子材料に焦点を当て、その合成法や機能および用途について学習する。さらに、有機材料が人類社会にどのように役立っているか、あるいは逆にどのような災厄をもたらしたか、いかにしてそれを解決していくべきか等の話題についても触れる。

●バックグラウンドとなる科目

化学, 物理, 材料物理化学, 材料物理学

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 演習 材料工学演習第1 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 選択
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい

研究資料収集に関するスキルを修得し、研究計画を立案するための素養と科学技術英語の基礎的な能力を養うことを目標とする。外国語文献(主として英語)を含めた文献調査の方法および文献データベースの使用方法等について学ぶ。設定課題の本質を理解しその解決方法を見いだすプロセスを学び、将来技術者として自立するための能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学コースの専門科目

●授業内容

各研究室ごとの卒業研究に関連した課題の演習

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

演習、レポートまたは口頭試問

科目区分 授業形態	専門科目 演習 材料工学演習第2 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 選択
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい

文章および口頭でのプレゼンテーションに関するスキルの修得と、質疑に対する応答や討論に参加するためのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。報告書・論文のまとめ方、発表に使用するポスターやスライド等の作成、口頭発表と質疑に対する応答の仕方を学び、将来技術者として自立するための能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学コースの専門科目

●授業内容

各研究室ごとの卒業研究に関連した課題の演習

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

演習、レポートまたは口頭試問

科目区分 授業形態	専門科目 講義 材料工学特別講義A1 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

科学技術の進展とともに、様々な分野で新材料へのニーズが生じてきている。このような背景のもとに、学外のエキスパートにより材料工学分野における最新のトピックスについて講述していただく。これによって、材料技術の最先端の知識を身に付けるとともに、社会の要求に答えられる材料開発のデザイン能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ:「社会基盤材料」
講師:日野光元(東北大学)
・テーマ:「セラミック材料」
講師:亀頭直樹(豊橋技術科学大学)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義 材料工学特別講義A2 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

科学技術の進展とともに、様々な分野で新材料へのニーズが生じてきている。このような背景のもとに、学外のエキスパートにより材料工学分野における最新のトピックスについて講述していただく。これによって、材料技術の最先端の知識を身に付けるとともに、社会の要求に答えられる材料開発のデザイン能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ:「ナノマテリアル」
講師:齋藤弥八(三重大)
・テーマ:「超伝導材料」
講師:秋光 純(青山学院大学)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	材料工学特別講義A3 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

科学技術の進展とともに、様々な分野で新材料へのニーズが生じてきている。このような背景のもとに、学外のエキスパートにより材料工学分野における最新のトピックスについて講述していただく。これによって、材料技術の最先端の知識を身に付けるとともに、社会の要求に答えられる材料開発のデザイン能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「生体材料・医用材料」
講師：岡崎鏡光 (産業技術総合研究所)
・テーマ：「生体材料・医用材料」
講師：堀 隆夫 (物質・材料研究機構)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義
	材料工学特別講義A4 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

科学技術の進展とともに、様々な分野で新材料へのニーズが生じてきている。このような背景のもとに、学外のエキスパートにより材料工学分野における最新のトピックスについて講述していただく。これによって、材料技術の最先端の知識を身に付けるとともに、社会の要求に答えられる材料開発のデザイン能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「自動車産業と材料加工」
講師：柴田公博 (日産自動車)
・テーマ：「材料評価法」
講師：楠英智子 (財) ファインセラミックスセンター)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義		
	光・半導体物性 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 選択	応用物理学 4年前期 必修選択	量子エネルギー工学 4年前期 選択
教官	酒井 朗 助教授 中村 新男 教授		

●本講座の目的およびねらい

半導体の光学的、電気的性質を理解するための分光学と固体電子論の基礎を学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

物理光学第1, 第2, 物性物理学第3, 第4, 量子力学A, B

●授業内容

1. エネルギーバンド
2. 熱平衡における半導体の物理
3. 非熱平衡におけるキャリアの振舞い
4. p n接合と光半導体デバイス
5. 原子・分子分光学
6. 半導体のバンド構造
7. 固体の光物性

●教科書

●参考書

大貫洋雄編著「物性物理学」 朝倉書店

●成績評価の方法

試験およびレポート

科目区分 授業形態	専門科目 講義	
	量子材料化学 (2単位)	
対象履修コース 開講時期 選択/必修	量子エネルギー工学 3年前期 必修選択	材料工学 4年前期 選択
教官	田邊 哲朗 教授	

●本講座の目的およびねらい

材料の性質を理解するためには、電子論に基づいた化学結合概念の取得が不可欠である。本講義ではその基礎となる量子化学の概念の習得と、それを具体的に計算する分子軌道法の初歩の講義を行う。

●バックグラウンドとなる科目

基礎化学
物理化学
量子力学
物理化学
量子化学

●授業内容

1. 量子力学の基礎
2. 水素原子
3. 化学結合論
4. 分子軌道の概念
5. 簡単な分子軌道法

●教科書

基礎化学教科書
化学モノグラフ9 分子と結合—化学結合解題— : H. B. Gray著 (化学同人)
物理化学教科書

●参考書

化学者のための量子力学入門、L. Pauling and E. B. Wilson 著 (白水社)
一般的 な物理化学の教科書

●成績評価の方法

レポート及び試験

科目区分 授業形態	専門科目 実験・演習
	卒業研究A (2.5単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 必修
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい

材料の機能と創製プロセスについての基礎的原理・法則を理解するための授業や演習・実験をベースとし、材料工学や周辺分野の具体的な問題を解決する研究テーマを行う講座を選択し、材料工学コースおよび関連専攻・センター教官の指導の基に研究を行う。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学コースにおける授業・演習・実験

●授業内容

担当教官との討論や綿密な文献調査に基づいて、研究の背景や目的を理解するとともに、問題解決に必要とされる実験計画を立案する。同時に、実験の原理や実験に用いる装置や機器の取扱いを正しく理解する。得られた実験データに基づいて結果を整理するとともに、様々な情報を交えて考察し、討論を行う能力を身につける。さらに、得られた成果をまとめ口頭ならびに卒業論文として発表し、議論する能力を身につける。

●教科書

担当教官が指示する。

●参考書

担当教官が書籍、学術論文および資料を配布する。また、種々の情報メディアから必要な情報入手するための方法を指導する。

●成績評価の方法

卒業研究A・Bを合わせて、卒業研究への取り組みを基に、複数の項目(後日通知)について評価を行う。

科目区分 授業形態	専門科目 実験・演習
	卒業研究B (2.5単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 必修
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい

材料の機能と創製プロセスについての基礎的原理・法則を理解するための授業や演習・実験をベースとし、材料工学や周辺分野の具体的な問題を解決する研究テーマを行う講座を選択し、材料工学コースおよび関連専攻・センター教官の指導の基に研究を行う。

●バックグラウンドとなる科目

材料工学コースにおける授業・演習・実験

●授業内容

担当教官との討論や綿密な文献調査に基づいて、研究の背景や目的を理解するとともに、問題解決に必要とされる実験計画を立案する。同時に、実験の原理や実験に用いる装置や機器の取扱いを正しく理解する。得られた実験データに基づいて結果を整理するとともに、様々な情報を交えて考察し、討論を行う能力を身につける。さらに、得られた成果をまとめ口頭ならびに卒業論文として発表し、議論する能力を身につける。

●教科書

担当教官が指示する。

●参考書

担当教官が書籍、学術論文および資料を配布する。また、種々の情報メディアから必要な情報入手するための方法を指導する。

●成績評価の方法

卒業研究A・Bを合わせて、卒業研究への取り組みを基に、複数の項目(後日通知)について評価を行う。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工学概論第1 (0.5単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 1年前期 選択	応用物理学 1年前期 選択	量子エネルギー工学 1年前期 選択
教官	非常勤講師(教務)		

●本講座の目的およびねらい

社会の中核で活躍する名古屋大学の先輩が広く深い体験を踏まえて、学生に夢を与え、工学部出身者に必須の対人的、かつ内面的な人間力を涵養し、その後の勉学の指針を与える。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

「がんばれ先輩」として、社会の中核で活躍する先輩が授業を行う。

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工学概論第2 (1単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年前期 選択	応用物理学 4年前期 選択	量子エネルギー工学 4年前期 選択
教官	非常勤講師(教務)		

●本講座の目的およびねらい

21世紀型のエネルギー・環境システムの構築には工学基礎知識を横断的かつシステム的に考え併せなければならない。本講義は地球規模の環境問題を含めて、エネルギーや環境問題に対する現状を概論するとともに環境調和型エネルギーシステム概念を習得させる事を主目的とする。特にエネルギー環境問題は機動性が重要になるため時事問題にも大いに目及するとともに、これからの技術開発指針や研究問題を明確にし、我が国の将来性を担う社会人の要請に重点を置く。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

1. 多様化する地球環境問題の現状と課題
 2. 酸性雨問題と対応技術
 3. フロンによるオゾン層破壊問題と対応技術
 4. 地球温暖化問題と対応技術
 5. 環境調和型エコエネルギーシステム
 6. エネルギーカスケード利用とコージェネレーション
 7. 21世紀中葉エネルギービジョンと先端技術
- 注:本講義は7月から8月にかけての3日間の集中講義方式で行う。

●教科書

事前に適切な寄物を選定し知らせる。

●参考書

●成績評価の方法

試験および演習レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工学概論第3 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年後期 選択	応用物理学 4年後期 選択	量子エネルギー工学 4年後期 選択
教官	田淵 雅夫 助教授		

●本講座の目的およびねらい

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史および先端技術を把握する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

日本の科学と技術における各分野の発展の歴史や先端技術について、ビデオや先端企業の見学を通して紹介する。日本が世界において科学的および技術的に果たす役割について討論し、理解を深める。

●教科書

なし

●参考書

なし

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工学倫理 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 1年前期 選択	応用物理学 1年前期 選択	量子エネルギー工学 1年前期 選択
教官	非常勤講師(教務)		

●本講座の目的およびねらい

技術は社会や自然に対して様々な影響を及ぼし種々の効果を与えている。それらに関する理解力や責任など、技術者の社会に対する責任について考え、自覚する能力を身につけることをめざす。

●バックグラウンドとなる科目

基本主題科目(世界と日本、科学と情報)

●授業内容

1. 工学倫理の基礎知識
2. 工学の実践に関わる倫理的な問題

●教科書

なし

●参考書

c.ウィットベック(札幌順、飯野弘之共訳)『技術倫理』(みすず書房)、斎藤了文・坂下浩司編、『はじめての工学倫理』(昭和堂)、c.ハリス他著(日本技術士会訳編)『科学技術者の倫理-その考え方と事例-』(丸善)、米田科学アカデミー編(池内了訳)『科学者をめざすみみたちへ』(化学同人)

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工場管理 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年後期 選択	応用物理学 4年後期 選択	量子エネルギー工学 4年後期 選択
教官	非常勤講師		

●本講座の目的およびねらい

製造業を中心とする企業経営において、その成長・発展に不可欠な技術革新のマネジメントを学ぶ。経営学、組織論、経済学、技術史などの多様な観点から解説する。

●バックグラウンドとなる科目

なし

●授業内容

1. 技術革新の連続性～コネクションズ～
2. 技術革新における飛躍～セレンディピティ～
3. 革新的組織と場のマネジメント
4. 技術革新の背景～パラダイムシフト～
5. 技術革新の相互作用
6. 技術革新のダイナミズム

●教科書

なし

●参考書

講義中、必要に応じて紹介する。

●成績評価の方法

レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	工業経済 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年後期 選択	応用物理学 4年後期 選択	量子エネルギー工学 4年後期 選択
教官	非常勤講師		

●本講座の目的およびねらい

一般社会人として必要な経済の知識

●バックグラウンドとなる科目

社会科学全般

●授業内容

1. 経済の循環
2. 景気の変動
3. 為替レートと外国貿易
4. 政府や日銀の役割

●教科書

中矢俊博著「入門書を読む前の経済学入門」(岡文館,2001年)

●参考書

多和田一尾崎編著「経済学の基礎」(中央経済社,1998年)

●成績評価の方法

レポートと試験で総合的に評価する。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	電気工学通論第1 (2単位)		
対象履修コース 受講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 選択	応用物理学 3年前期 選択	量子エネルギー工学 2年前期 選択
教官	水谷 照吉 教授		

●本講座の目的およびねらい

電気・電子工学の基礎を習得し、電気・電子機器について学修する。

●バックグラウンドとなる科目

電気磁気学

●授業内容

1. 電磁気学の基礎
2. 電気回路
3. 過渡現象
4. 電気機器

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験及び演習

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	電気工学通論第2 (2単位)		
対象履修コース 受講時期 選択/必修	材料工学 3年後期 選択	応用物理学 3年後期 選択	
教官	毛利 佳年雄 教授		

●本講座の目的およびねらい

電気系以外の他学科の学生に電気工学のエッセンスを講義し、電気工学への理解を深めさせることを主眼とする。電気工学通論第2としては、「電子回路理論」の基本的事項を講義する。

●バックグラウンドとなる科目

物理学基礎I, II, 数学I及び演習

●授業内容

1. 電子回路要素 (受動素子と能動素子)
2. 増幅素子 (トランジスタ, 電解効果トランジスタ)
3. デジタル回路 (デジタル回路要素, 電子スイッチ, 論理ファミリー)
4. デジタル・システム, プール代数, 論理回路の解析・合成
5. 電子計算機 (計算機の構成, 記憶装置, 演算装置, 命令の実行)
6. 演算増幅器 (演算増幅器の原理, 基本的な応用, アナログ演算)

●教科書

電子回路入門: 斎藤忠夫著

●参考書

●成績評価の方法

試験

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	特許法 (1単位)		
対象履修コース 受講時期 選択/必修	材料工学 4年後期 選択	応用物理学 4年後期 選択	量子エネルギー工学 4年後期 選択
教官	渡辺 久士 教授		

●本講座の目的およびねらい

わが国の特許制度の基本知識を習得するとともに、特許実践能力をつける。特許制度と大学、企業等の研究開発との関連を学び、強い特許マインドを身につける。

●バックグラウンドとなる科目

特になし

●授業内容

1. わが国の特許制度の基本的知識
2. 大学、企業などにおける特許制度の機能と役割

●教科書

工業所有権標準テキスト (企画: 特許庁) 書いてみよう特許明細書出してみよう
特許出願 (企画: 特許庁)

●参考書

●成績評価の方法

出席およびレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義		
	機械工学通論 (2単位)		
対象履修コース 受講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 選択		
教官	酒井 康彦 教授		

●本講座の目的およびねらい

機械工学のうち流体工学に関する基礎使役とその利用について学ぶ。

●バックグラウンドとなる科目

力学

●授業内容

1. 流体の性質
2. 静水力学
3. 流体の運動方程式
4. 流体計測
5. 流体機械

●教科書

詳解 流体工学演習
菊山他著, 共立出版

●参考書

●成績評価の方法

試験と演習レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	材料工学特別講義B1 (1単位)
対象履修コース 履修時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

地球環境、エネルギー、廃棄物処理などの諸問題に対処していくためには、材料分野の専門知識だけでは不十分で、関連する各種の周辺テーマについての知識が必要である。本科目では、これらの各種周辺テーマに関する講義を通じて、様々な分野の基盤となっている材料技術と諸問題との関わりについて考えるとともに、多くの事例を用いた技術者倫理・工学倫理の講義と合わせて、技術者・研究者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「海外における材料生産状況」
講師：柴田哲典(新日鐵(株))
・テーマ：「エネルギー・太陽電池」
講師：松田彰久(産業技術総合研究所)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	材料工学特別講義B2 (1単位)
対象履修コース 履修時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

地球環境、エネルギー、廃棄物処理などの諸問題に対処していくためには、材料分野の専門知識だけでは不十分で、関連する各種の周辺テーマについての知識が必要である。本科目では、これらの各種周辺テーマに関する講義を通じて、様々な分野の基盤となっている材料技術と諸問題との関わりについて考えるとともに、多くの事例を用いた技術者倫理・工学倫理の講義と合わせて、技術者・研究者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「材料のライフサイクルと環境対応」
講師：笹谷純子(財)素材センター
・テーマ：「エコマテリアル」
講師：山本良一(東京大学)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	材料工学特別講義B3 (1単位)
対象履修コース 履修時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

地球環境、エネルギー、廃棄物処理などの諸問題に対処していくためには、材料分野の専門知識だけでは不十分で、関連する各種の周辺テーマについての知識が必要である。本科目では、これらの各種周辺テーマに関する講義を通じて、様々な分野の基盤となっている材料技術と諸問題との関わりについて考えるとともに、多くの事例を用いた技術者倫理・工学倫理の講義と合わせて、技術者・研究者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「ベンチャー起業と技術開発」
講師：辻理(株)サムコインターナショナル研究所
・テーマ：「企業の求める人材像」
講師：倉橋実(日本IBM)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義
	材料工学特別講義B4 (1単位)
対象履修コース 履修時期 選択/必修	材料工学 4年前期 4年後期 選択
教官	非常勤講師(材機)

●本講座の目的およびねらい

地球環境、エネルギー、廃棄物処理などの諸問題に対処していくためには、材料分野の専門知識だけでは不十分で、関連する各種の周辺テーマについての知識が必要である。本科目では、これらの各種周辺テーマに関する講義を通じて、様々な分野の基盤となっている材料技術と諸問題との関わりについて考えるとともに、多くの事例を用いた技術者倫理・工学倫理の講義と合わせて、技術者・研究者として社会に対する責任を自覚する能力を養う。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容

材料工学に関する特別講義
・テーマ：「企画書・報告書」
講師：徳永良邦(名)古屋産業科学研究所
・テーマ：「特許・知的財産」
講師：桐原俊(清水橋 本国際特許事務所)

●教科書

●参考書

●成績評価の方法

試験またはレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 工場見学 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 選択
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい
材料工学に関連する企業や研究所を見学し、最先端の技術や研究に触れることを目的とする。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学の専門科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
レポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 実習 工場実習 (1単位)
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 選択
教官	各教官(材料機能)

●本講座の目的およびねらい
材料工学に関連した企業における実習体験を通し、エンジニアに求められている資質を身につける。材料工学と実用上の問題との接点を身近に体験することにより、学習意欲を喚起する。また、企業・社会に対するこれまでの漠然としたイメージを払拭し、将来の仕事や自分の適正を考える上で有意義な体験をする。さらに、企業人とのコミュニケーションを通し、主体性、責任感、自立心の醸成に役立てる。

●バックグラウンドとなる科目
材料工学の専門科目

●授業内容

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
45時間相当以上の実習を行い、レポートと実習先の評価を勘案し単位を認定する。

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義 物理・材料・エネルギー工学概論 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 3年前期 選択	応用物理学 3年前期 選択	量子エネルギー工学 3年前期 選択
教官	山澤 弘実 助教		

●本講座の目的およびねらい
材料の物性設計・精製・加工における諸問題を解決するための材料科学の基礎と最近のトピックスについて講述する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 材料の物性と設計
2. 材料の精製プロセス
3. 材料の加工プロセス

●教科書

●参考書

●成績評価の方法
試験またはレポート

科目区分 授業形態	関連専門科目 講義 職業指導 (2単位)		
対象履修コース 開講時期 選択/必修	材料工学 4年後期 選択	応用物理学 4年後期 選択	量子エネルギー工学 4年後期 選択
教官	非常勤講師(教務)		

●本講座の目的およびねらい
工業高校の生徒の進路指導では「工業」を職業とするという前提で、工業に関する職業の基本的な考え方、自身の適性をふまえた上での職業選択、就職後の能力開発、職場での人的諸問題の解決などについて生徒の理解を深めることを目的とする。この観点から実際に生徒の進路指導・選択に当たる際の指導法についても教授する。

●バックグラウンドとなる科目

●授業内容
1. 職業の意義と職業のあり方
2. 職業適性とその規程要因
3. 教育訓練と職場内キャリア開発
4. 職場集団のダイナミクス
5. 職場のメンタルケア
6. 情報化と職業問題
7. 進路指導の基礎理論とそのあり方
8. 進路指導の歴史的経緯
9. 進路指導の実践例
10. 大学生の職業選択と就職活動
11. 現代の工業教育

●教科書

●参考書

●成績評価の方法